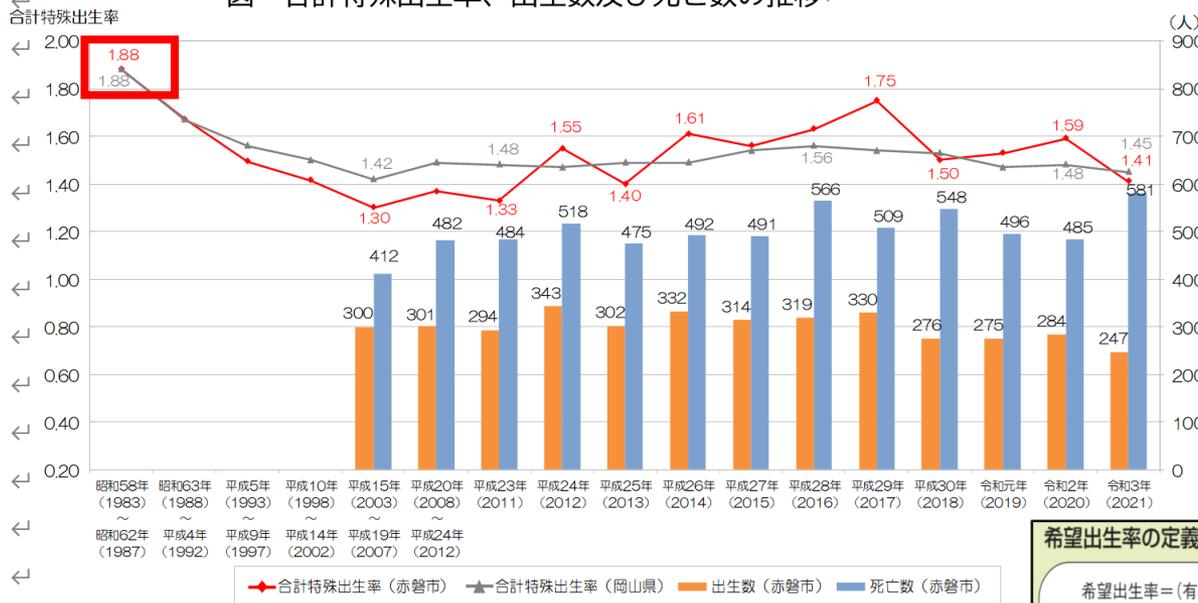


# 人口推計パターン（4つのパターン）

ケース	内 容	
ケース1	出生	<ul style="list-style-type: none"> <li>合計特殊出生率は、令和2年改訂の人口ビジョンと同様とする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7（2025）年：1.61、令和12（2030）年：1.8、令和17（2035）年：1.94、令和22（2040）年以降：2.07</li> </ul> </li> <li>※2025年に合計特殊出生率1.61：第2次赤磐市総合計画の目標</li> <li>2030年に1.80、2040年に2.07：「岡山県人口ビジョン改訂版（令和3年3月）」</li> </ul>
	移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動率は、社人研推計（令和5年12月）と同様とする。</li> </ul>
ケース2 （令和2年改訂人口ビジョン目標人口に準拠）	出生	<ul style="list-style-type: none"> <li>合計特殊出生率は、ケース1（令和2年改訂の人口ビジョン）と同様とする。</li> </ul>
	移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動率は、ケース1（社人研推計（令和5年12月））と同様とする。</li> <li>移動数は、令和12（2030）年から毎年20人（5年間で100人）の新たな転入を見込む。               <ul style="list-style-type: none"> <li>男性：0～4歳が5～9歳になる年代5人、25～29歳が30～34歳になる年代5人（男性合計10人/年）</li> <li>女性：0～4歳が5～9歳になる年代5人、25～29歳が30～34歳になる年代5人（女性合計10人/年）</li> </ul> </li> </ul>
ケース3	出生	<ul style="list-style-type: none"> <li>合計特殊出生率は、令和12（2030）年に国民希望出生率1.8を達成し、その後維持する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7（2025）年：1.61、令和12（2030）年以降：1.8</li> </ul> </li> <li>※2025年に合計特殊出生率1.61：第2次赤磐市総合計画の目標</li> <li>2030年に1.80（国民希望出生率1.8）</li> </ul>
	移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動率は、ケース1（社人研推計（令和5年12月））と同様とする。</li> </ul>
ケース4	出生	<ul style="list-style-type: none"> <li>合計特殊出生率は、ケース3と同様とする。</li> </ul>
	移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動率は、ケース1（社人研推計（令和5年12月））と同様とする。</li> <li>移動数は、ケース2と同様とする。</li> </ul>

# 人口推計パターン（出生の変数）

図 合計特殊出生率、出生数及び死亡数の推移

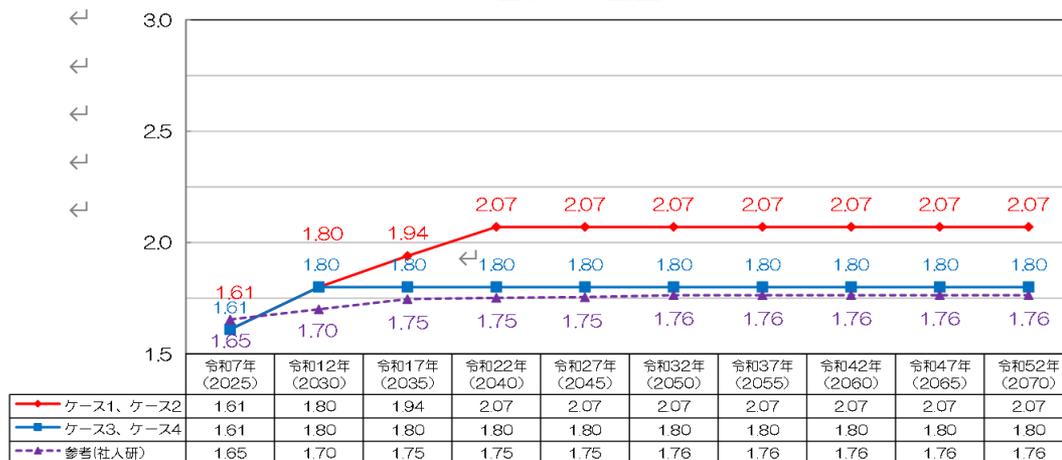


●合計特殊出生率の考え方（ケース4を選んだ理由）

- ・ケース1における「2035年：1.94」、「2040年以降：2.07」は現実的に達成が難しいため、「国民希望出生率1.8」を当面の間は目指すこととする。
- 「1.8」が達成出来次第、「1.94」や「2.07」を目指す。

※近年における最も高い合計特殊出生率は、「1.88」（1983年～1987年）

図 検討ケース毎の合計特殊出生率



## 希望出生率の定義式

$$\begin{aligned}
 \text{希望出生率} &= (\text{有配偶者割合} \times \text{夫婦の予定子ども数} \\
 &+ \text{独身者割合} \times \text{独身者のうち結婚を希望する者の割合} \times \text{独身者の希望子ども数}) \\
 &\times \text{離死別等の影響} \\
 &= (34\% \times 2.07 \text{人} + 66\% \times 89\% \times 2.12 \text{人}) \times 0.938 \\
 &= 1.83 \\
 &\approx 1.8 \text{程度}
 \end{aligned}$$

※資料：令和2年度 年次経済財政報告（内閣府）

※希望出生率とは、若い世代における結婚、妊娠・出産、子育ての希望がかなう場合に想定される出生率である。

※希望出生率の定義式は、内閣府「平成28年版少子化社会対策白書」により作成。

※総務省「国勢調査（平成22年）」、国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（平成22年）」、「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」を基に計算。

# 人口推計パターン（転入の加算）

## ●移動数の考え方（ケース4を選んだ理由）

・男性は0～4歳、30～34歳が転入超過、

同じく女性も0～4歳、30～34歳が転入超過となっており、この年齢層の世帯をターゲットにしながら、更なる転入を見込んでいる。

表 転入者数及び転出者数

男性

単位：人

	転入者数平均	転出者数平均	転入者数平均 －転出者数平均
0歳～4歳	61	26	35
5歳～9歳	24	17	7
10歳～14歳	11	13	-2
15歳～19歳	24	51	-27
20歳～24歳	87	132	-45
25歳～29歳	101	107	-6
30歳～34歳	76	61	15
35歳～39歳	59	50	9
40歳～44歳	42	36	6
45歳～49歳	35	28	7
50歳～54歳	24	20	4
55歳～59歳	20	14	6
60歳～64歳	20	11	9
65歳～69歳	15	9	6
70歳～74歳	13	7	6
75歳～79歳	4	6	-2
80歳～84歳	6	8	-2
85歳～89歳	3	5	-2
90歳以上	2	4	-2
合計	627	605	22

女性

単位：人

	転入者数平均	転出者数平均	転入者数平均 －転出者数平均
0歳～4歳	60	30	30
5歳～9歳	22	13	9
10歳～14歳	9	12	-3
15歳～19歳	32	36	-4
20歳～24歳	73	134	-61
25歳～29歳	95	105	-10
30歳～34歳	81	65	16
35歳～39歳	53	44	9
40歳～44歳	32	27	5
45歳～49歳	28	25	3
50歳～54歳	23	19	4
55歳～59歳	20	13	7
60歳～64歳	17	10	7
65歳～69歳	15	11	4
70歳～74歳	15	13	2
75歳～79歳	8	9	-1
80歳～84歳	7	13	-6
85歳～89歳	9	10	-1
90歳以上	9	11	-2
合計	608	600	8

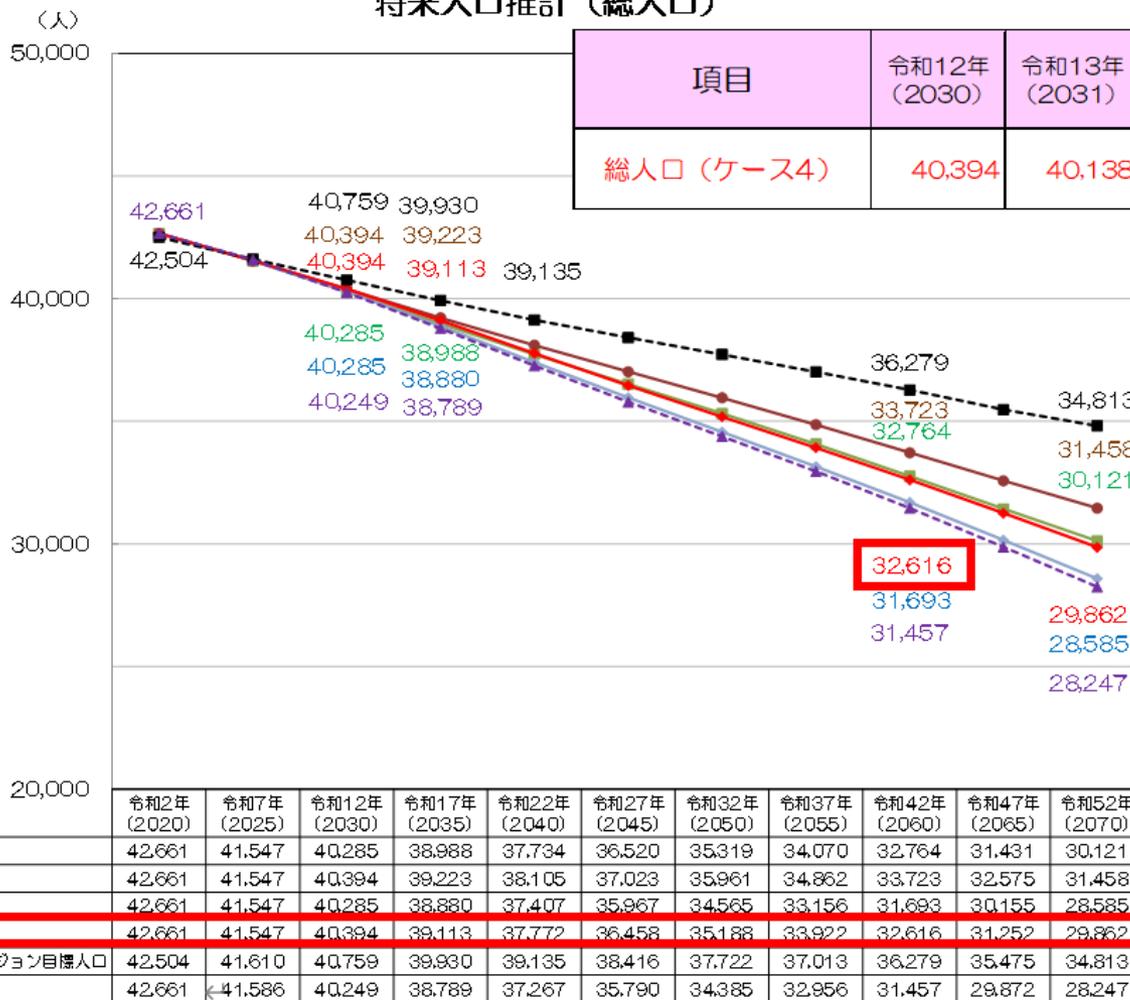
注：平均は2019年～2023年までの平均

5歳階級別人数を四捨五入して計算しているため、合計は転入者・転出者の平均値と合致しない。

資料：住民基本台帳人口移動報告

# 人口推計パターン

将来人口推計（総人口）



短期目標：令和 14（2032）年度  
 末の赤磐市の総人口目標  
 （※第3次赤磐市総合計画・総合戦  
 略の最終年）  
**40,000 人**

長期目標：令和 42（2060）年度  
 末の赤磐市の総人口目標  
 （※国のまち・ひと・しごと創生長  
 期ビジョン（令和元年改訂版）の長  
 期的展望の目標年）  
**33,000 人**